

Ⅲ 専門部会の取組

1 道徳授業研究部会の取組

(1) 授業実践の内容

道徳の時間において自らの思いや考えを伝え合うことができるよう、各学年・ブロックごとに指導観を基に作成した、資料分析図を活用して、「活動」や「資料」、「発問」、「板書」、「ワークシート」、「教材・教具」などの視点を取り入れ、伝え合う活動が充実するよう授業を構想し、授業を繰り返し実践しながら工夫や改善を行ってきている。

(2) 授業研究会

低・中・高学年ブロックごとに目指す児童像を想定し、子どもの姿を基に授業の効果や改善点などを検討したり話し合ったりしながら授業研究会を繰り返し行い、子どもたちが自らの思いや考えを互いに伝え合うことができるよりよい授業を目指して取り組んでいる。

(3) ブロックごとの取組

①低学年

「自分や友達の思いや考えを大切にし、伝え合い、自分の思いを広げることができる子」を目指す児童像としている。そして、「指導観を基にした資料の活用・工夫」や「考えを分かりやすく伝えられる教材・教具の工夫」の視点から、資料を紙芝居にして提示したり、ペープサートを活用したりする。このことで、低学年の実態を捉え、子どもたちがじっくりと資料に親しみをもって自分との関わりで考えられるようになるとともに、伝え合う活動を通して、道徳的価値の自覚を深めることにつながった。今後も、低学年の子どもたちが主体的に考えられる活動を工夫し、その工夫を取り入れた実践を積み重ねていく。

②中学年

中学年では、「友達の思いや考えを大切にして、よりよい自分の考えを生活の中で生かす子」を目指す児童像としている。そして、「指導観を基にした資料の活用・工夫」「ねらいを達成できる発問の工夫と構成」「考えを表出できるワークシートの工夫」「考えを分かりやすく伝えられる教材・教具の工夫」を視点として、中心発問と補助発問を系統的に考えたり、教具やワークシートを工夫したり、資料の提示を工夫したりする。このことで、自らの考えをしっかりと友達に伝えたり、深めたりするとともに、主人公の心情を捉え、それを基に自分事として考えられることにつながった。今後も、自分の考えだけでなく他の考えや感じ方に触れられるような活動を工夫していく。

③高学年

高学年では、「他者の思いや考えに触れ、自分の生き方をよりよくしようと努力する子」を目指す児童像としている。そして、「指導観を基にした資料の活用・工夫」「ねらいを達成できる発問の工夫と構成」「考えを表出できるワークシートの工夫」「考えを分かりやすく伝えられる教材・教具の工夫」を視点として、ねらいを明確にした資料を活用したり、主人公の表情図などの教具を工夫したりする。このことで、他者の思いや考えに触れることができ、子どもたちの実態や教師のねらいを明確にした意図的な授業につながった。今後も、中心発問を基に、互いの考え方を大事にできる活動や、自分の生き方につなげていける振り返り活動を工夫していく。

<授業研究会> 低学年ブロック



中学年ブロック



高学年ブロック

